



# 子宮頸がん予防ワクチン(HPV) 接種について ～積極的な勧奨が再開されました～

子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)は、平成25年6月、厚生労働省からの通知に基づき積極的な勧奨を差し控えてきましたが、令和3年11月厚生労働省からの通知によりワクチンの安全性が確認され、接種勧奨の再開が決定されました。

このことにより、町においても、令和4年4月、個別送付を行いました。

## 個別送付対象者

- ・定期接種対象者(平成18年4月2日生～平成22年4月1日生)
- ・キャッチアップ接種対象者(平成9年4月2日生～平成18年4月1日生)

積極的な接種勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方

※転入された方で接種を受けていない方、令和4年度小学6年生で接種を希望される場合は依頼書を発行いたしますのでご連絡下さい。

## 子宮頸がんについて

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年約10,000人の女性が子宮頸がんにかかり、約3,000人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんで、20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も数多くいます。

子宮頸がんのほとんどが、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因と考えられ、感染は主に性的接触によって起こり、女性の多くが一生に一度は感染すると言われています。

## HPVワクチン接種について

### ●対象者

〈定期接種〉

小学6年生～高校1年生相当(平成18年4月2日生～平成23年4月1日生)の女子

〈キャッチアップ接種〉

平成9年4月2日生～平成18年4月1日生の女子

### ●接種期間

〈定期接種〉

高校1年生相当の年度末(3月31日)まで

※平成18・19年度生の方は、令和7年3月31日まで対象となります。

〈キャッチアップ接種〉

令和7年3月31日まで



## ●接種費用

公費負担(自己負担なし)

## ●HPVワクチンの効果

公費で受けられるHPVワクチンは、子宮頸がんを起こしやすいタイプであるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。

## ●HPVワクチンのリスク

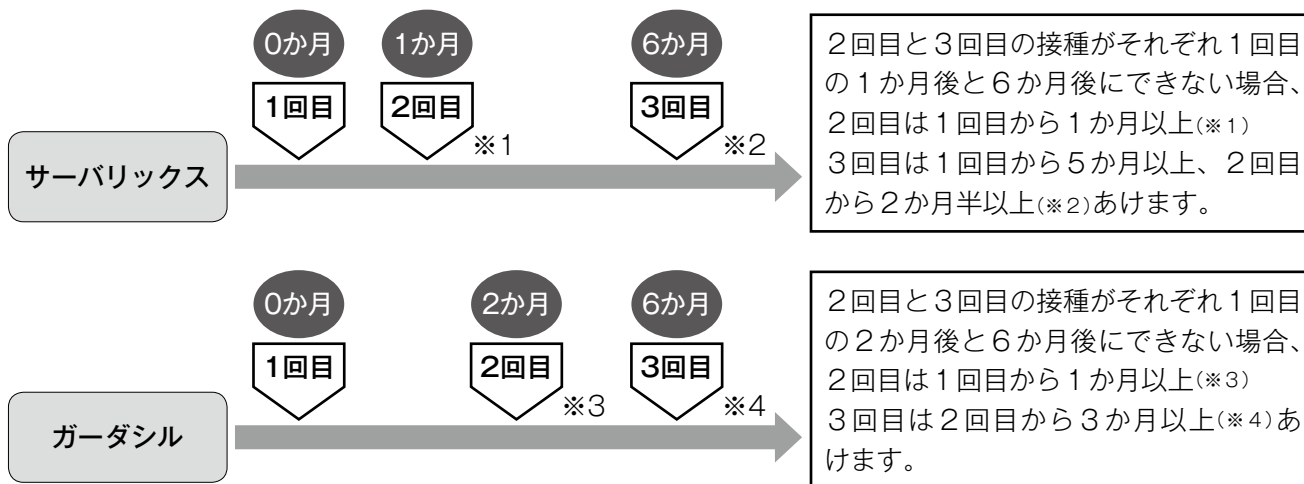
HPVワクチン接種後には、多くの方に、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがありますが、1～2週間程度で消失します。まれですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)が起こることがあります。接種後、痛みが長く続いたり、身体が動かしにくいなどの症状が報告されましたが、ワクチン接種との因果関係は証明されていません。

※ワクチン接種後に何らかの困った症状があり、心配される場合は、和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターで相談を受けることができます。

## ●接種回数と接種スケジュール

公費で接種できるHPVワクチンを2種類(サーバリックス・ガーダシル)あります。決められた間隔で同じワクチンを合計3回接種します。

### ・一般的な接種スケジュール



ともに、1年以内に接種を終えることが望ましい

## ●令和4年3月31日までに自費で子宮頸がん(HPV)予防ワクチンの接種を受けた方へ

平成9年度生まれから平成16年度生まれの女性で、定期接種の対象年齢を過ぎて子宮頸がん(HPV)予防ワクチンを実費で受けた方に接種費用の払い戻しを行います。

対象となる方は子育て福祉健康課へ払い戻しの申請にお越しください。

### ・申請に必要な書類

- ▷接種記録が確認できる書類(母子健康手帳等)
- ▷領収書
- ▷通帳